

財務局長会議
越智金融担当副大臣冒頭挨拶
(平成 29 年 1 月 26 日 (木))

内閣府副大臣の越智隆雄です。

財務局長会議の開催に当たり、私からは3点お話ししたいと思います。

まず、検査・監督の見直しについて申し述べます。

いわゆる「金融処分庁」の印象から「金融育成庁」への転換を推進するためには、我々の組織にその考え方を定着させることが重要です。このため、新しい検査・監督のあり方について整理することを目的として、昨年夏から「金融モニタリング有識者会議」を開催しています。本年度中には報告書をいただき、それを踏まえた金融庁としての考え方を今春には取りまとめる予定です。

その後、この考え方に沿ったオンオフ一体の検査・監督を本格的に実施するため、検査マニュアルや監督指針の抜本的な見直しなどを進めていきます。

その作業を行うに当たっては、金融機関と金融庁の双方が検査・監督のプリンシプルについて共通の理解に立つことが重要であることから、金融機関と十分な対話を行っていきます。

次に、国民の安定的な資産形成の促進について申し述べます。

少額からの長期・積立・分散投資による資産形成を広く普及させるため、平成 29 年度税制改正大綱では、「積立NISA」の創設が盛り込まれました。

こうした取組みを通じ、投資家のすそ野の更なる拡大を実現していきます。

その際には、金融商品の販売、助言、商品開発等の全ての段階で、顧客本位の良質な金融商品・サービスの提供を競い合うメカニズムを実現しなければなりません。

具体的には、昨年末に金融審議会「市場ワーキング・グループ」で取りまとめられた報告書における提言を踏まえ、3月中を目処に「顧客本位の業務運営に関する原則」の最終版を確定・公表する予定です。金融機関に「原則」の受け入れを呼びかけ、その定着に向けた取組みを進めていきます。

さらに、この「原則」を踏まえた金融機関の対応が形式的なものに留まることのないよう、金融機関が、顧客本位の観点に立った競争を行う環境作りに向けて、総合的な取組みを推進していきます。

次に、金融仲介機能の質の向上について申し述べます。

人口の減少や高齢化の進展など金融機関やその取引先企業を取り巻く環境が大きく変化する中、金融機関が、企業価値を向上させるためのアドバイスとファイナンスを適切に行うことによって顧客の発展に貢献することは、金融機関自身の経営の安定

性にも寄与すると考えられます。

これを促す観点から、金融機関の経営者との深度ある対話の実施など、金融仲介機能の質の向上に向けた取組みを進めていきます。

各財務局長におかれては、今申し述べた取組みの趣旨をご理解いただき、国民に信頼される金融行政の遂行に向けて全力を尽くすよう希望して、私の挨拶といたします。

以 上